

10月から暮らし こう変わる

税金	酒の増税・減税 ビールが350 ^{ミリ} リットルあたり7円減税、第3のビールは同9.8円増税。日本酒が1 ^{リットル} あたり10円減税、ワインは同10円増税
TAX	たばこの増税 紙巻きたばこが1箱(20本)20円の増税、加熱式たばこや軽量の葉巻たばこも増税
働く	最低賃金を引き上げ 都道府県ごとに順次改定。40県で3~1円引き上げられ、全国平均は1円増の902円に
	厚生年金加入者の自己負担増 月収63万5千円以上の加入者の自己負担が月約2700円増。9月分を10月給与から天引き
子育て	小児のロタウイルスワクチンが定期接種に 20年8月以降に生まれた子の接種費用が原則無料に。春ごろ流行の急性胃腸炎を予防
放送	NHK受信料の値下げ 地上契約は月35円値下げし月1225円(口座・クレジット)、衛星契約は月60円値下げし月2170円(同)に

暮らし変わる秋

10月から 最低賃金引き上げ・NHK値下げ…

10月から暮らしにかかわる税金や制度が見直される。ビール系飲料^①は税率を一本化するための増減税が始まる。

▼2面 酒の税率「いちからわかる」
酒税法の改正で、350^{ミリ}リットルあたりでビール(税額77円)が7円減税となり、割安な第3のビール(同28円)は逆に9.8円増税される。

たばこ税は増税となる。紙巻きたばこが1本あたり1円増税され、加熱式たばこや軽量の葉巻たばこも増税となる。各銘柄で1箱数十円の値上げの見通しだ。働く人の最低賃金は10月以降、40県で3~1円引き上げられる。全国の加重平均額は902円と、現在の901円から1円増える。

NHK受信料は、地上契約が月額35円値下げし、衛星契約が同60円値下げになる。医療分野では、乳幼児の重い胃腸炎の原因となるロタウイルスのワクチンの予防接種が、10月から公費で受けられる定期接種となる。今年8月以降に生まれた子どもの分から原則無料となる。

ビール系増減税 笑うのは

酒税法の見直しで、ビールと第3のビールの価格差が縮まる。350^{ミリ}リットル缶の店頭での差は、80円ほどから65円ほどに縮まる店が多そう。コロナ禍で飲み方を変えつつあった消費者が手に取るのは、どのお酒なのか。

値上げを控えた第3のビールを、駆け込みで買う動きが出ている。27日の日曜日、都内のドン・キホーテ中目黒本店には、第3の24缶入りケースがずらり並んだ。

店の担当者によると第3の値上がり幅は、1ケースあたり200円ほどになりそうだという。第3の9月の売り上げは昨年より3割多い。一方のビールの値下がり、1ケース100円ほどの見込みだ。10月に入ると、こちらを前面に押し出す。

酒税の見直しは、メーカーも追い風にしたい。スィードライを主力とするアサヒビールの塩沢賢一社長は「今年はビール復権の年になる」。製造日を記したドライの6缶セットを10月未から売り出し、鮮度をアピールする。

ビール系飲料の消費は、若者のビール離れや人口減少を背景に、減り続けている。第3や発泡酒を含めた大手5社の出荷量は1994年にピークをつけ、18年までに3割減った。ビール系のうち、値段が高いビールがとりわけ振るわない。

コロナ禍が、拍車をかけた。外出の自粛で飲食店でのビール消費が激減した。一方で「家飲み」は広がり、安めの第3のビールが伸びた。ことし上半期は、販売数量で初めてビールを抜いた。

「消費者の生活防衛は厳しい。そう簡単にはビールに戻らない」。キリンホールディングスの磯崎功典社長はこう話し、全方向の方針でのぞむ。

第3のビール「本麒麟」の味わいを今年に入ってから変えるなど、主力商品として「糖質ゼロ」も近く売り出す。第3のビールからの主な乗り換え先は、ビール系飲料ではない、との見方もある。ある大手スーパリーの担当者は「チューハイやハイボールは今回の値上げがなく、値段も手ごろ。移る人が多いのでは」と話す。

(若井琢水、土居新平)

ビール系飲料
ビールは麦芽比率が50%以上で、特定の副原料が麦芽量の5%以内のもの。発泡酒は、麦芽比率が50%未満またはビールの規定外の副原料を使っている。第3のビールは、麦芽のほか大豆なども原料に使っている。第3のビールには発泡酒に蒸留酒を加えたものもある。